

蝦夷梅雨

変化の背景について

【研究概要】

本研究は北海道の降水量が増え、北海道にも梅雨がやってきたことを仮説として立て、明らかにすることを目的とする。札幌と日本各地の「降水量」「湿度」のデータを比べ、蝦夷梅雨とはどのようなものなのか明らかにする。

市立札幌旭丘高等学校 チームめがね: 佐藤優大、青木恵梨花、北山珠央

【背景と目的】

昨今、ニュースなどで蝦夷梅雨という言葉を目にする。ただ、蝦夷梅雨の定義は曖昧である。科学的な観点からその「蝦夷梅雨」の存在の真偽を明らかにする。

【研究方法、手順】

気象庁データベースを利用し、各地の6~8月の降水量の合計・平均湿度のデータを過去20年間分グラフ化する。そして、各地の気象の傾向を読み取り、考察する。

【仮説】

「梅雨前線が北海道付近まで近づくことがあり、そのときには北海道地方でも梅雨のような天気になり、大雨となることがある。この状態が「蝦夷梅雨」と呼ばれることがあるが、この状態は毎年のように出現しない。」「晩春から夏にかけて雨や曇りの日が現れる現象、またはその期間」(気象庁ホームページより引用、一部抜粋)

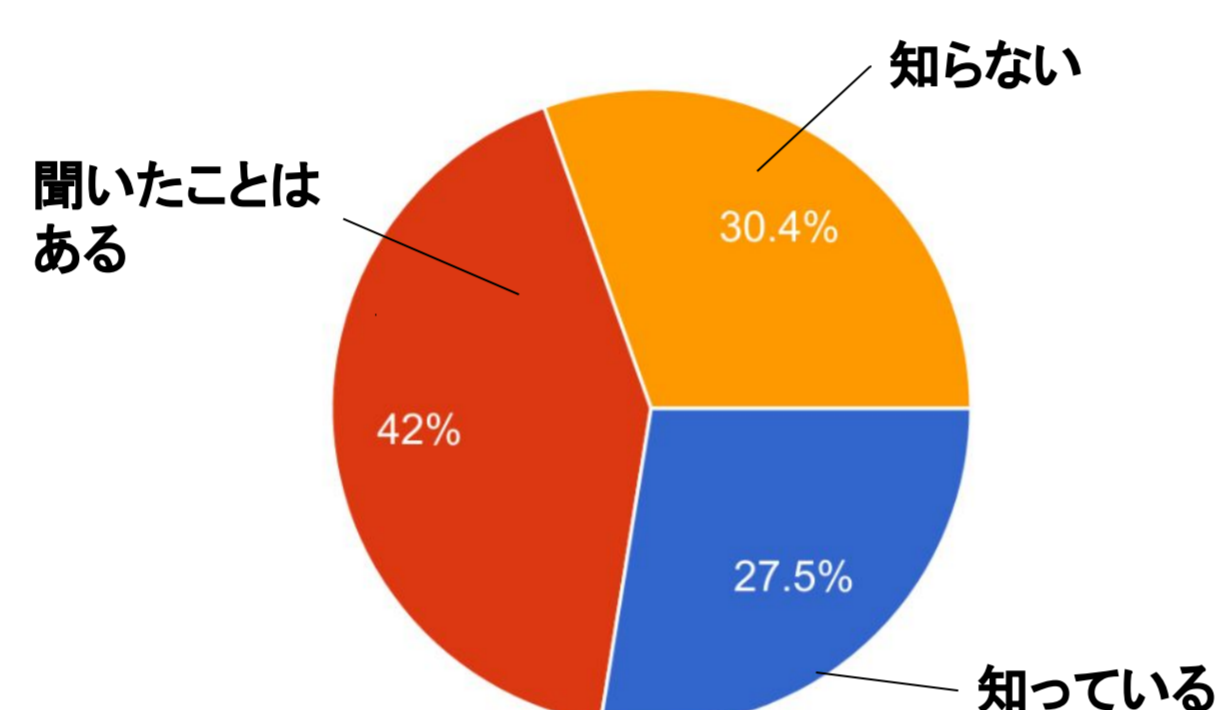
このように蝦夷梅雨は定義が明記されていないことから、ここでは蝦夷梅雨を「北海道地方における晩春から夏にかけて雨や曇りの日が現れる現象、またはその期間」と定義し、仮説を立てる。

北海道地方は年々、平均降水量・平均湿度が増加し、蝦夷梅雨の期間が長くなっていることが考えられる。蝦夷梅雨の時期は他の日本の地域の梅雨の時期に比べて、平均降水量・平均湿度が共に低い傾向にあると考えた。

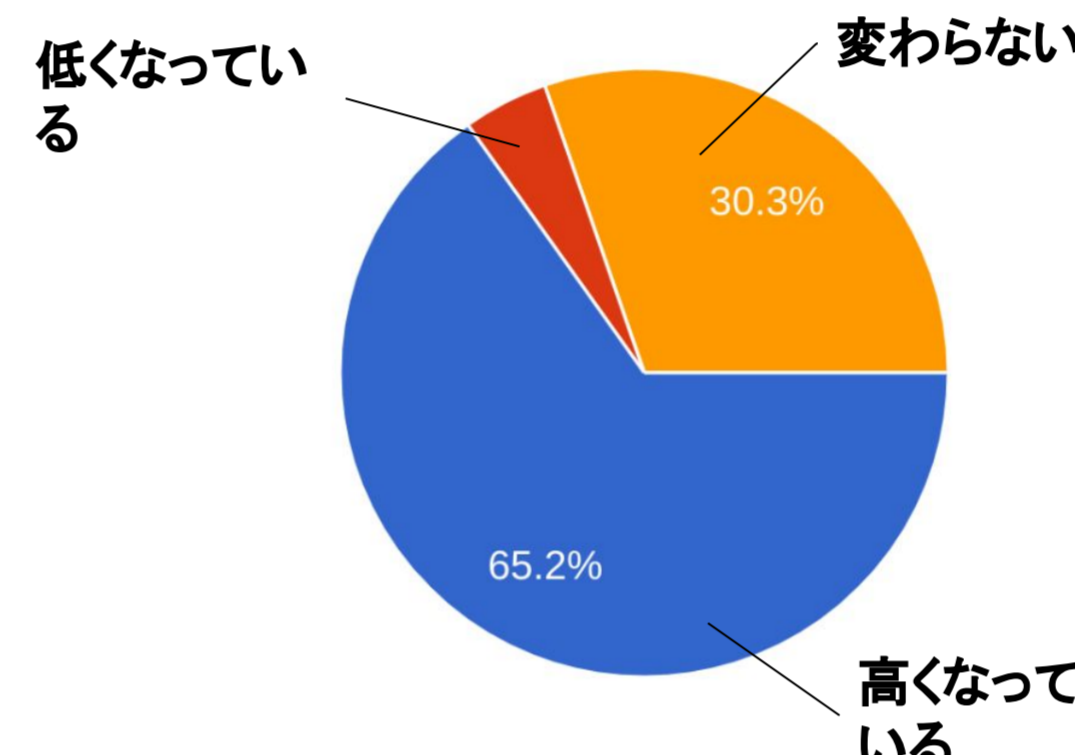
【旭丘生の本州の梅雨に対する蝦夷梅雨のイメージ】

- ・規模が小さい
- ・期間が短い
- ・激しくない、弱い
- ・時期が遅い
- ・寒い、気温が低くなりそう

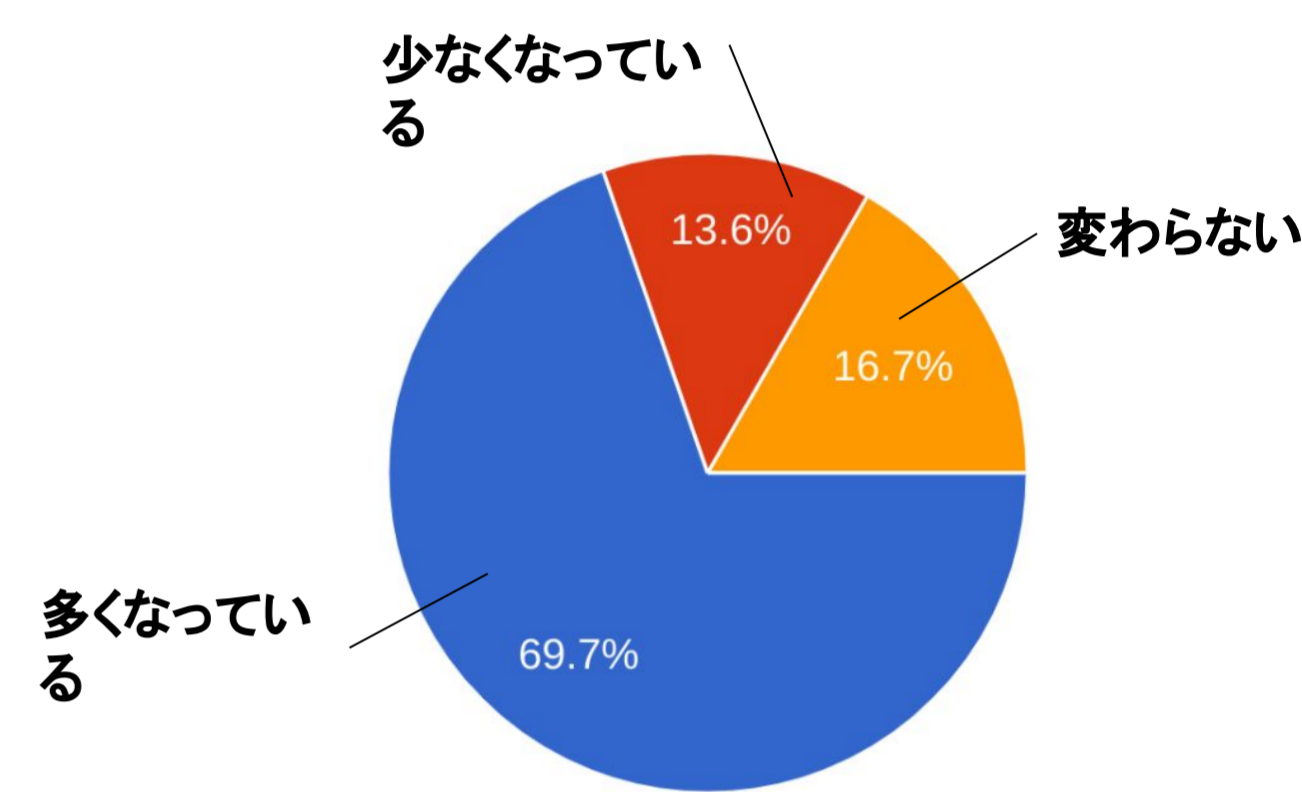
あなたは蝦夷梅雨を知っていますか？



札幌の湿度はどうなっていると感じていますか？

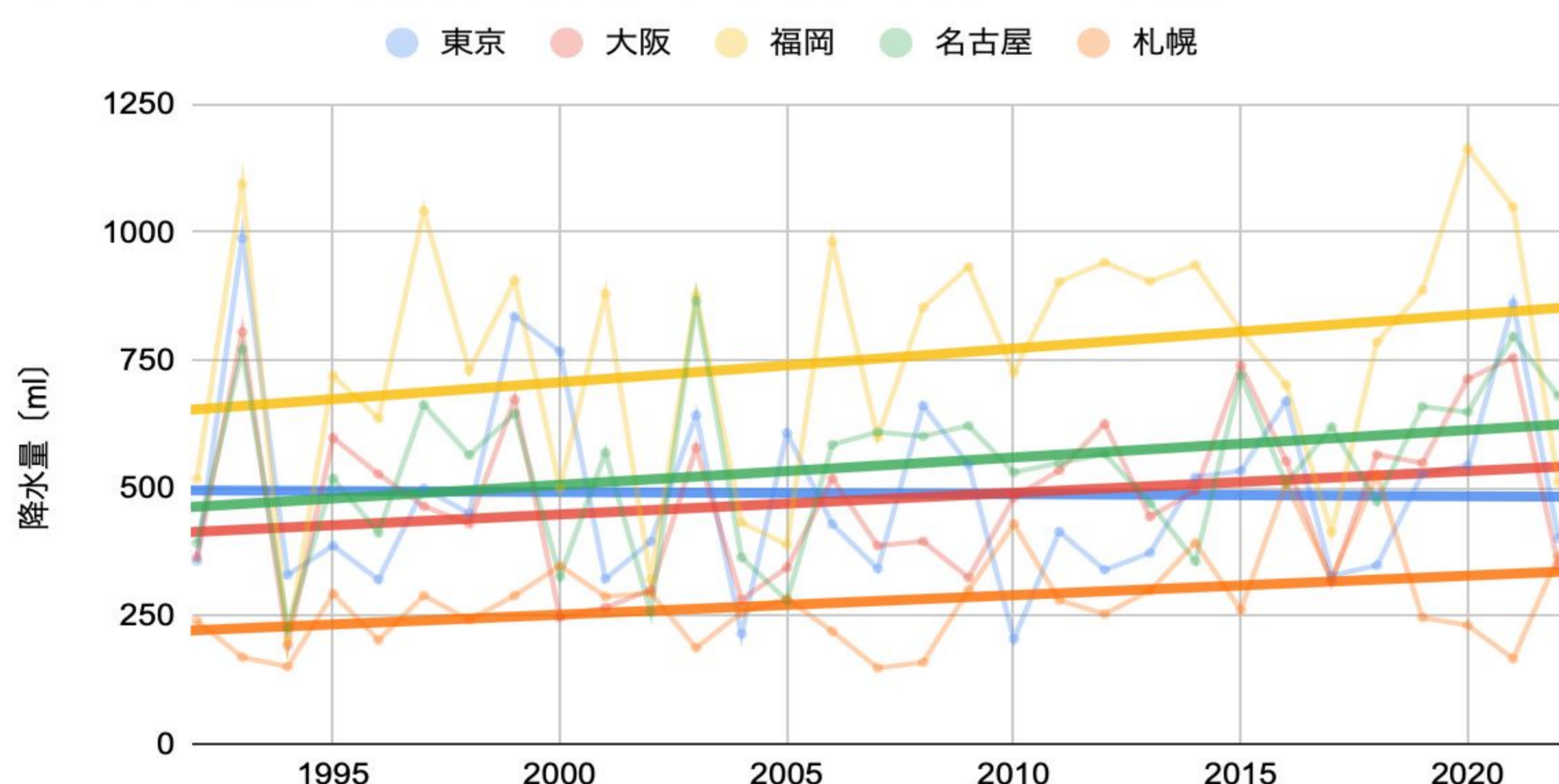


札幌の夏の降水量はどうなっていると感じていますか？

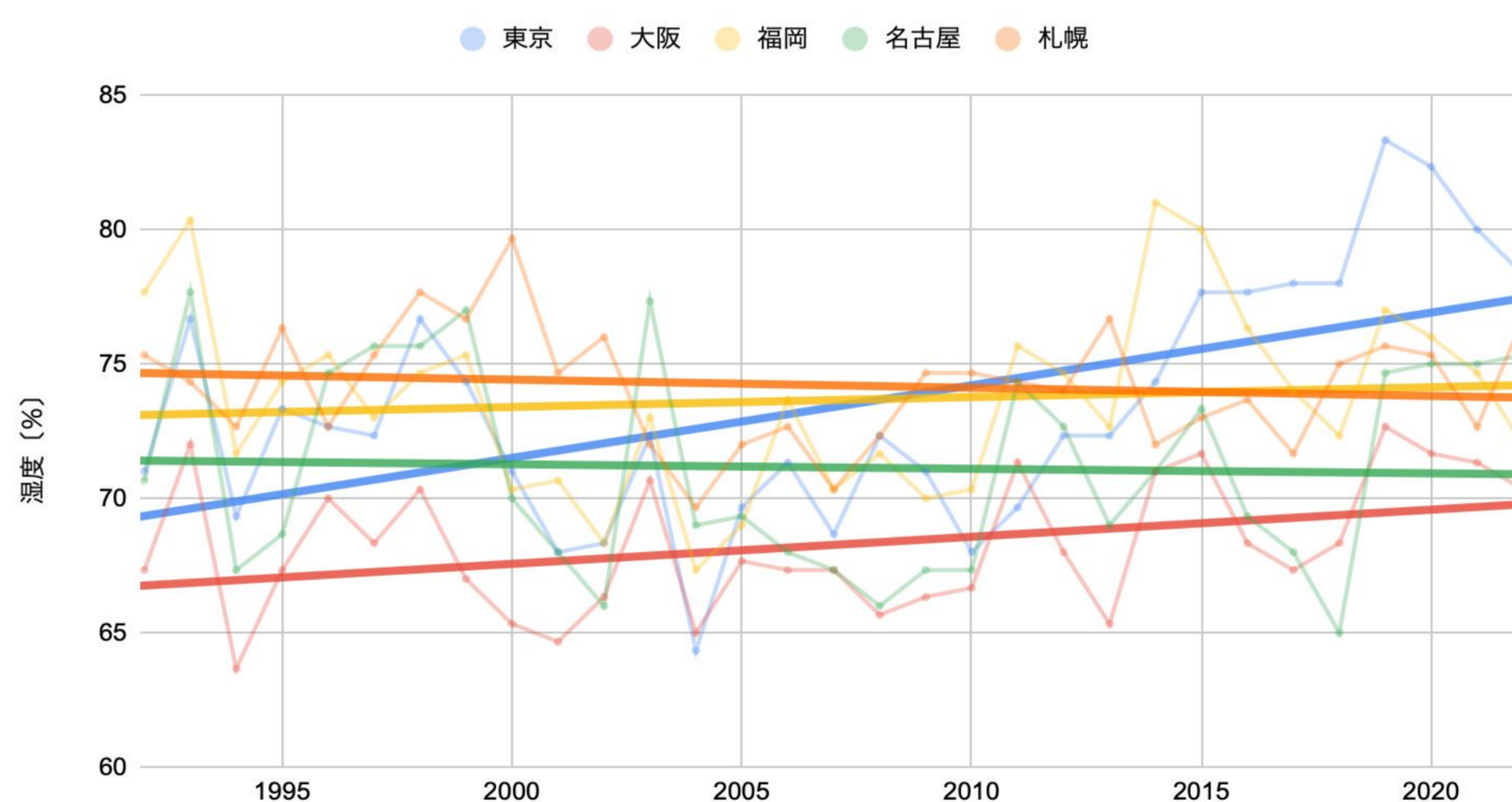


【研究結果】

東京、大阪、福岡、名古屋、札幌の降水量の合計



東京、大阪、福岡、名古屋、札幌の平均湿度



【考察】

〈降水量〉

- ・どの地点も緩やかな増加傾向
- ・年による増減が激しい
- ・札幌と東京の降水量の差は年々縮まっている。
- ・アンケートの「本州と比べて降水量が少ない」、「札幌の降水量は増えている」という意見と一致

〈湿度〉

- ・東京、大阪は増加傾向
- ・福岡、名古屋はほぼ変わらない
- ・札幌は極めてわずかに減少傾向

【結論】

札幌の降水量は増加し、湿度はほぼ一定ということが読み取れ、本州の梅雨の特徴に近づいていると言える。しかし、本州の各地でも同様の傾向が多く見られるため、日本全国で梅雨の時期の降水量、湿度が年々増えている事が分かる。また、降水量のグラフを年ごとに見ると、札幌を含める全ての地点で年ごとの増減が激しい。上記より蝦夷梅雨の傾向が強まっていながら、気象庁が蝦夷梅雨を定義できていないこと、旭丘生からのアンケートで「知っている」が3割と認知度が低いことから、**蝦夷梅雨と呼ばれる北海道における梅雨の気象状態は、数年おきに発生している**と結論を出した。

【今後の課題】

この北海道の降水量の増加の原因とは何か。蝦夷梅雨は異常気象の一部なのか？またその仮説が正しいとすれば、その異常気象はどのような要因から発生し、それは蝦夷梅雨と相関が現れるのか？蝦夷梅雨の発生する年を予測できるか？等を研究すれば、蝦夷梅雨について理解が深まると考えた。

また、日本全体で梅雨の時期の熱帯化が進んでいるとも言える。世界的問題となっている地球温暖化現象との関連性も考慮すると研究がより発展すると思った。

出典: 気象庁データベース